

平成29年度 横浜市立南山田小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。南山田小学校では、東急バスと連携し実施しました。
- 南山田小学校は、横浜市営地下鉄 グリーンライン 北山田駅を最寄り駅とする地域で、センター北駅からは都心に繋がるブルーラインも利用できます。地下鉄の駅が近く、バスを利用する子どもは少なめの地域です。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

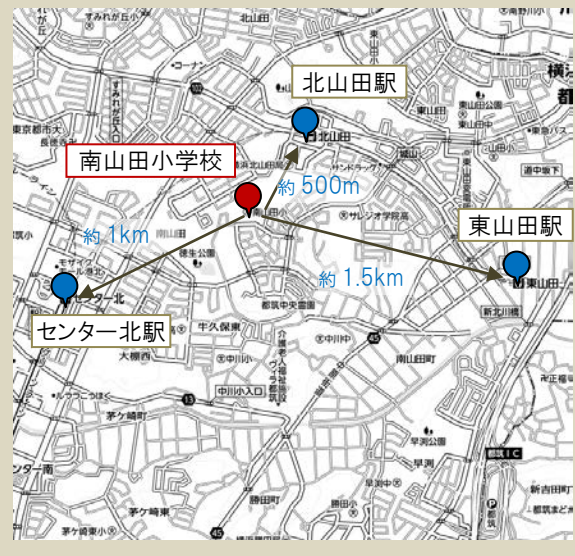
- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- クラス別に、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②運転席からの死角の体験、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活きた知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、③の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。

■交通バリアフリー教室について

【日時】平成29年11月7日(火)
第1～4校時(8:40～12:05)

【対象】南山田小学校
4年生1～4組(128人)

【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスの死角体験
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



校庭に駐車するバス



座学①



座学②



体験学習前のオリエンテーション



後部ドアの車いす体験



死角の説明を受ける子どもたち

2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知ってほしい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 子どもたちは北山田駅に行くときは歩いていくことが多いようですが、塾や習い事等の際には、センター北駅等へ子どもたちだけでバスでお出かけすることもあります。
- 成長していく過程の中で「**便利なクルマに頼りすぎず、今と同じように、バスで行ける所はバスで行くこと**」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝えました。
- 将来的にバス事業が継続していくためにも、「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使うって暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さ**を肌にした子どもたちがたくさんいました。
- 子どもたちがバスへの関心を持ち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートする**きっかけとなる「交通バリアフリー教室」となりました。
- また、運転席に座ってバスの死角について学んだり、紙芝居を通じてバス車内でのルールや乗り方を学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- 子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



バス前面の死角範囲

運転席に座って、運転手から見えないバスの「死角」を体験しました。バスの前の青いコーンの内側は運転手から見えない死角でこの中にお友達がしゃがんでしまうと、見えません。

車いすに人を乗せてバスのスロープを登ったり、降りたりするのは、とても力が入ることです。体験後の子どもたちは、大変だった、降りるときに怖かった、と話していました。



車いす体験